



# 2018年3月期決算説明会

2018年5月31日

三菱ロジスネクスト株式会社



# 2018年3月期決算概要

三菱ロジスネクスト株式会社  
取締役社長 御子神 隆

## 市場環境

- 世界経済は、米国の保護主義的な通商政策への傾倒による米中貿易摩擦により世界貿易の先行きに懸念が広がったものの、米国・欧州を中心とした先進国及び中国をはじめとする新興国においても好調な経済環境が継続。
- 日本経済も堅調な世界経済を受けて、企業収益・雇用環境が引続き改善し、緩やかな景気拡大傾向が継続。
- フォークリフトを中心とする物流機器業界も市場規模は拡大傾向であるものの、競争環境はますます厳しさを増しており、市場の変化やお客様ニーズに応えることで、より一層の売上増加・シェアアップを目指す。

## 連結業績概要

- 売上高は米州・日本で売上が伸長したことや円安による為替換算増等が寄与し、前年比実質+9.3%の増収。  
また、営業利益は資材費高騰等が響いたが、原価改善や売上増による粗利増が寄与し、前年比実質+36.5%の増益。  
なお、制度会計ではのれん償却期間の違いなどにより、前年比▲11.7%の減益。

(注) 2017年3月期は、2017年1月にユニキャリア社の全株式を取得したことで連結対象としている（2016年12月までは持分法適用）  
本資料では比較を容易にする観点から、2017年3月期について12ヶ月間フル連結したものと仮定した仮想連結対比で比較している。

## 2. 決算ハイライト

Logisnext

※仮想連結：ユニキャリア社の2017年3月期業績を仮にフル連結した場合の概算数値

(単位：億円)

| 損益計算書                           | 2017年3月期        | 2017年3月期<br>(ユニキャリア仮想連結※) | 2018年3月期        | 前年同期比増減<br>(仮想連結との比較) |        |
|---------------------------------|-----------------|---------------------------|-----------------|-----------------------|--------|
| 売上高                             | 2,710           | 3,964                     | 4,331           | +367                  | +9.3%  |
| 営業利益 (のれん償却前)<br>(営業利益率)        | 131.4<br>(4.8%) | 166.6<br>(4.2%)           | 191.3<br>(4.4%) | +24.7                 | +14.9% |
| のれん償却                           | ▲26.3           | ▲98.6                     | ▲98.5           |                       |        |
| 営業利益<br>(営業利益率)                 | 105.1<br>(3.9%) | 68.0<br>(1.7%)            | 92.8<br>(2.1%)  | +24.8                 | +36.5% |
| 経常利益<br>(経常利益率)                 | 89.8<br>(3.3%)  | 63.7<br>(1.6%)            | 84.3<br>(1.9%)  | +20.6                 | +32.3% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益<br>(当期純利益率) | 36.4<br>(1.3%)  | 15.2<br>(0.4%)            | 29.4<br>(0.7%)  | +14.2                 | +93.5% |

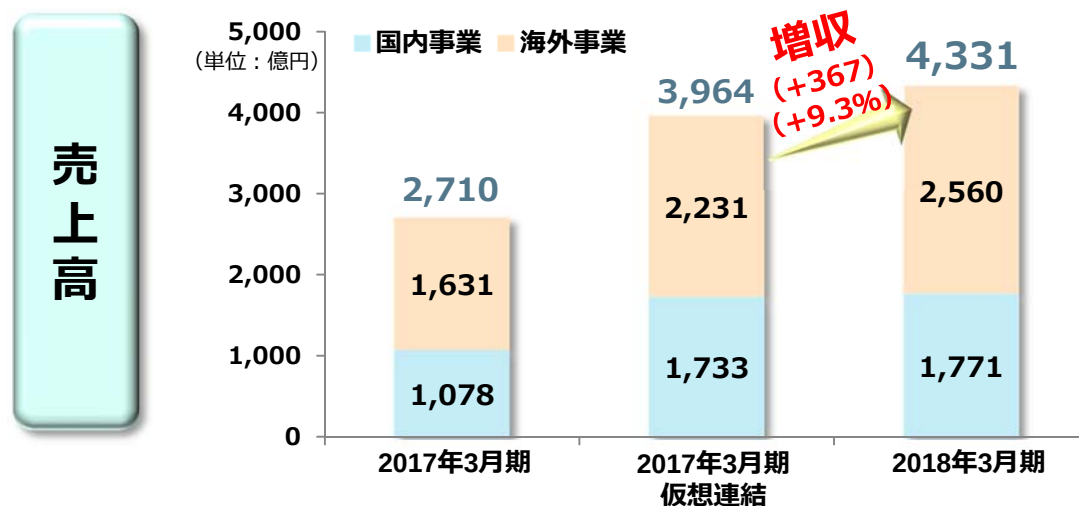
| 貸借対照表 | 2017年3月期 | 2018年3月期 | 前年同期比増減 |        |
|-------|----------|----------|---------|--------|
| 総資産   | 3,669    | 3,765    | + 96    | + 2.6% |
| 総負債   | 3,069    | 3,141    | + 72    | + 2.3% |
| 純資産   | 600      | 624      | + 24    | + 4.0% |

2017年3月期実績レート：USD = 108.38円 EUR = 118.79円 CNY = 16.11円

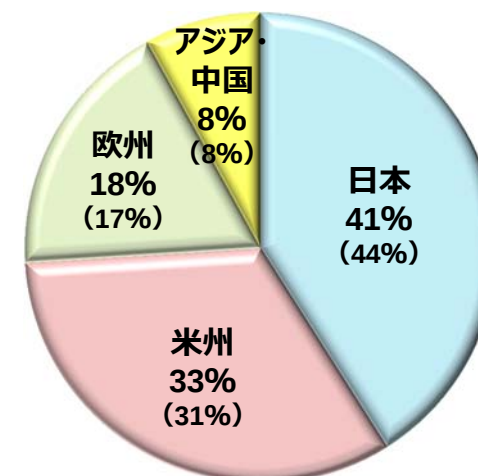
2018年3月期実績レート：USD = 110.85円 EUR = 129.70円 CNY = 16.75円

### 3. セグメント別業績

売上高：国内では電気車の販売増、海外では需要拡大による増収

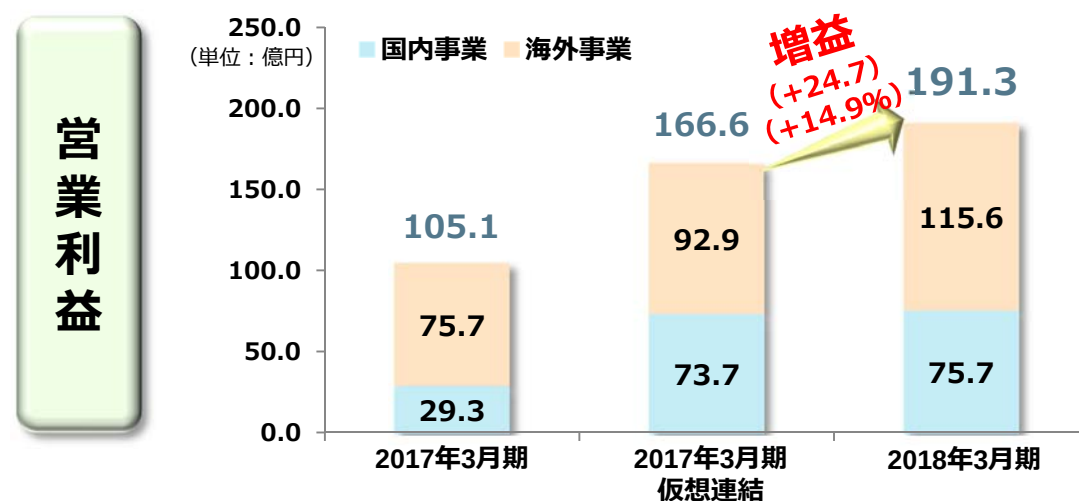


地域別内訳 (2018年3月期)

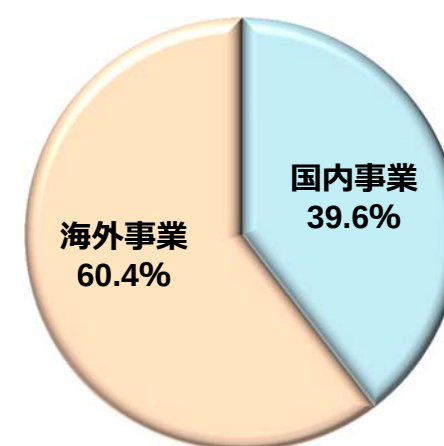


( ) は前年実績

営業利益：国内は電気車増・円安寄与で増益、海外は売上増、原価低減等が寄与し増益



セグメント別内訳 (2018年3月期)

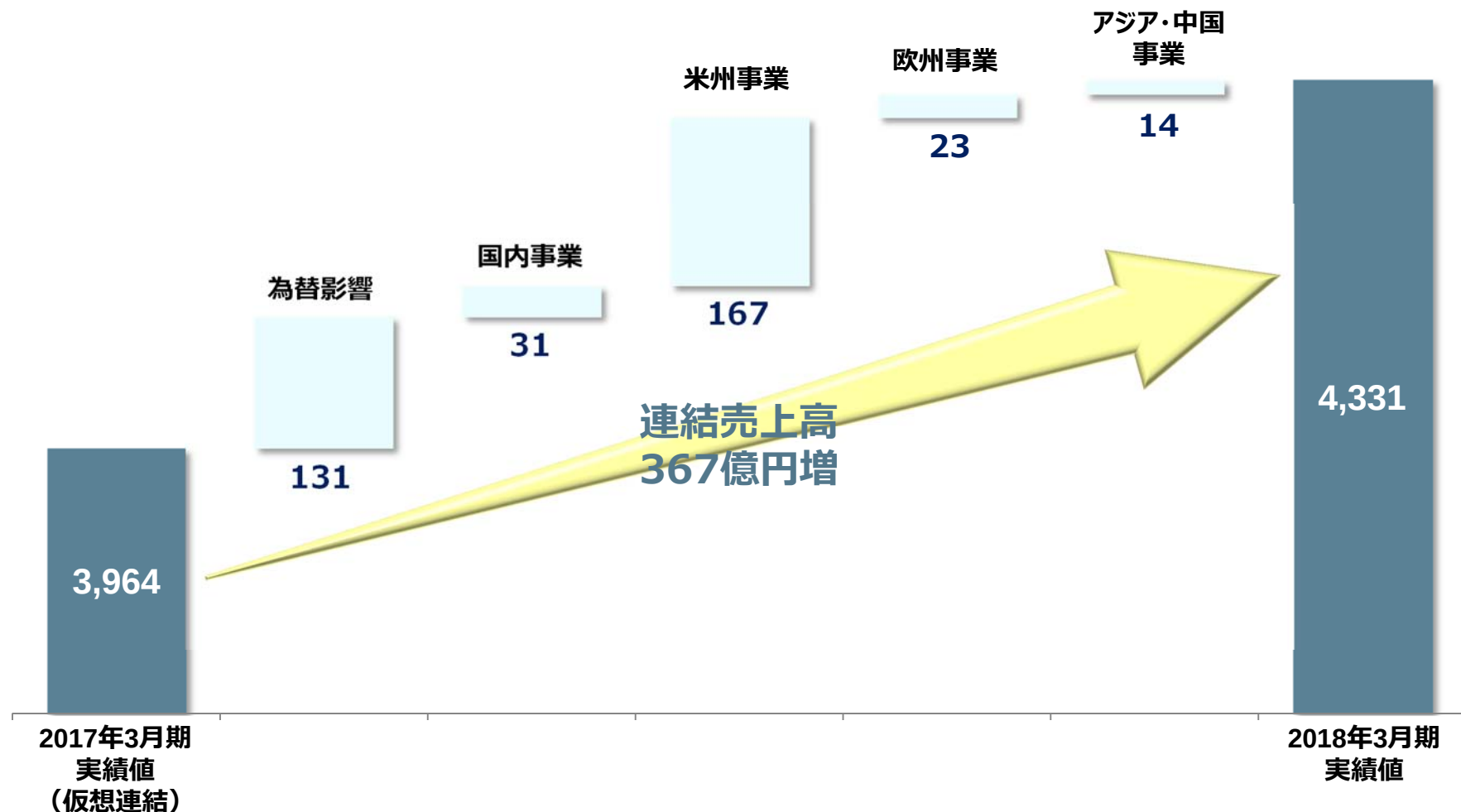


## 4. 連結売上高増減要因（前年同期実績対比）

Logisnext

円安による為替換算差に加え、米州・日本を中心とした販売増が寄与し増収

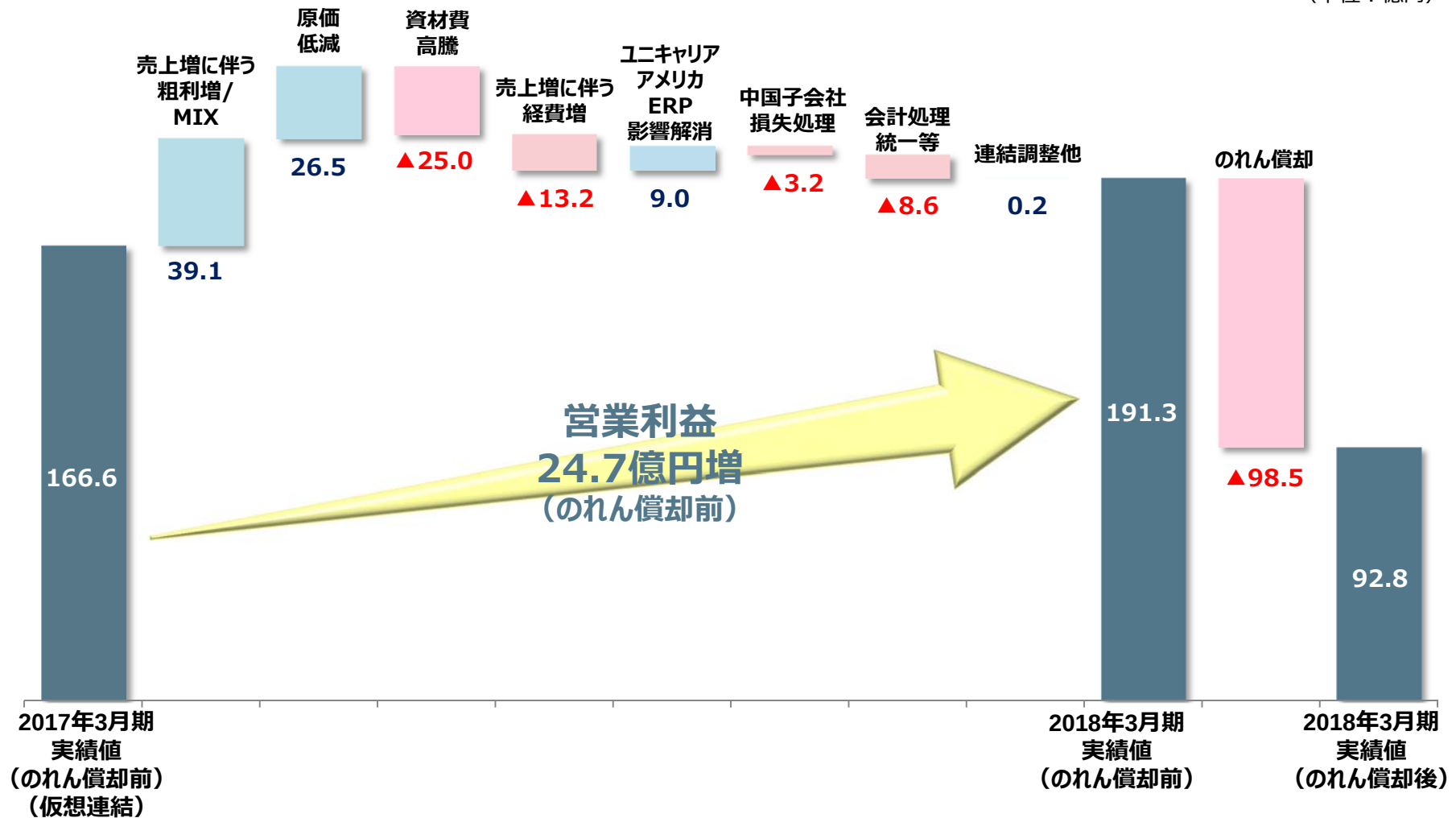
（単位：億円）



## 5. 連結営業利益増減要因（前年同期実績対比） **Logisnext**

資材費高騰・経費増等が響くも、売上増や原価低減等のシナジーが寄与し増益

（単位：億円）



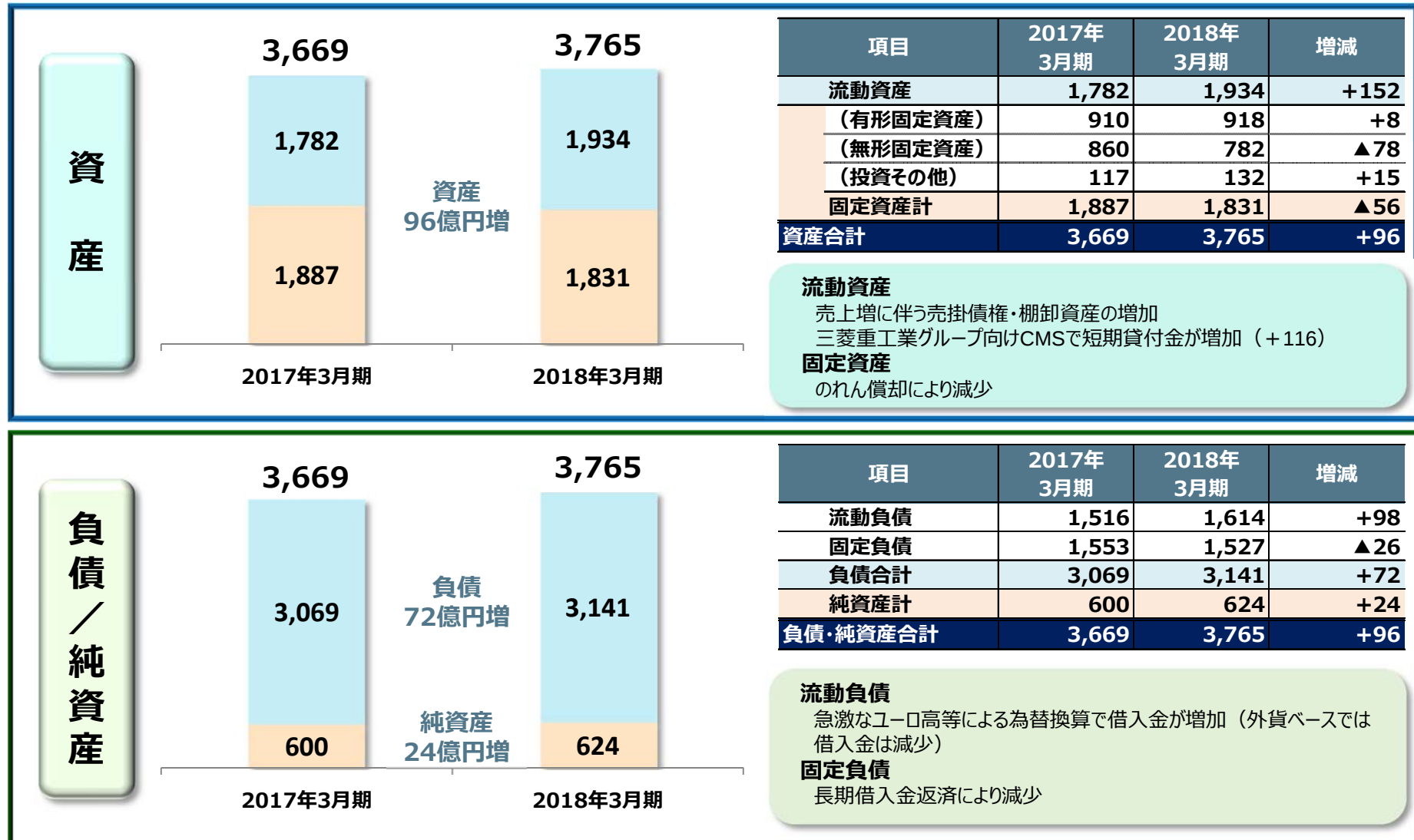
## 6. 連結貸借対照表

Logisnext

総資産増加の主要因は親会社向けCMS※による短期貸付金の増加

※CMS：キャッシュマネジメントシステム

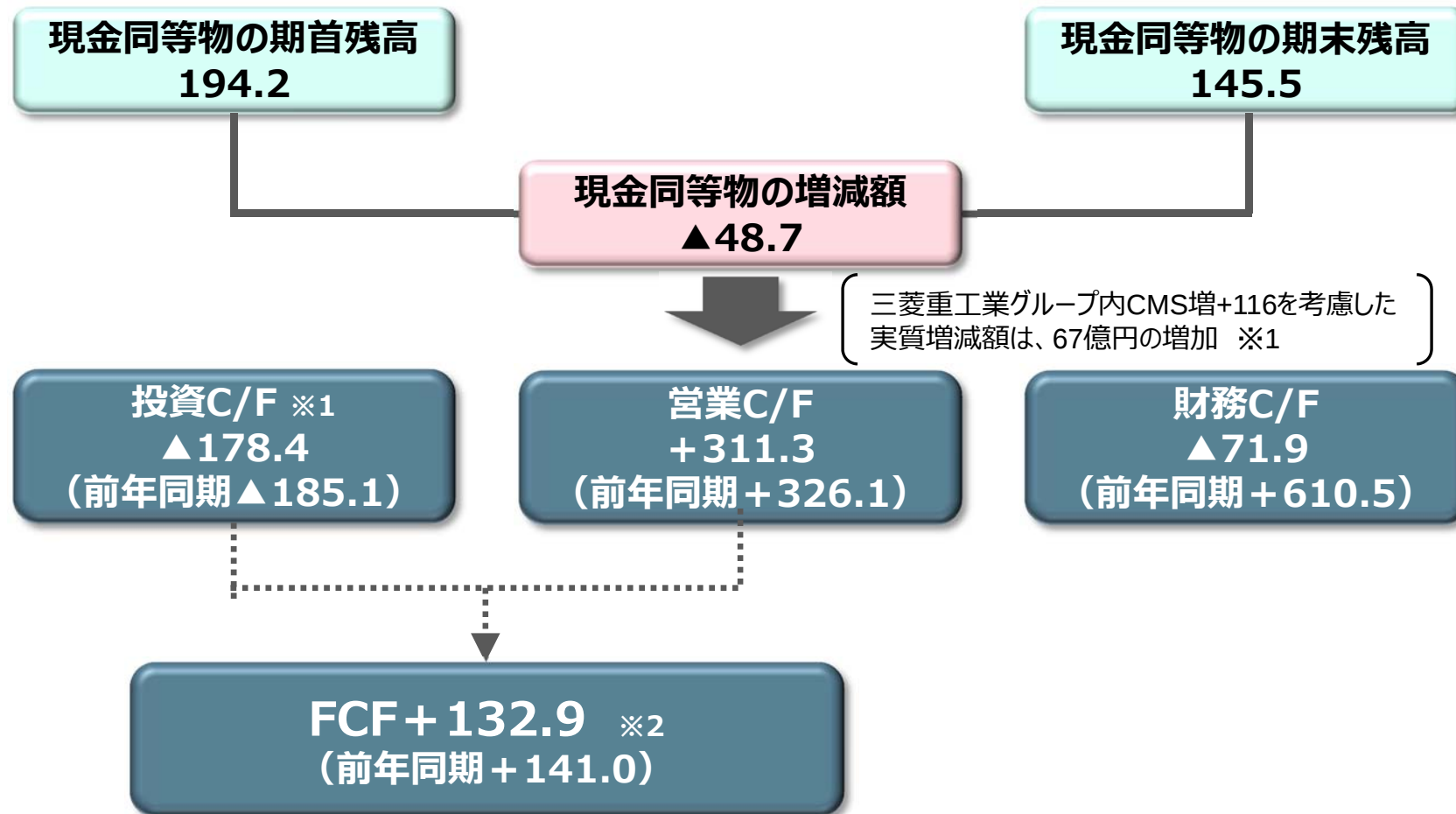
(単位：億円)



## 7. 連結キャッシュ・フロー計算書

Logisnext

(単位：億円)



※1 今期は三菱重工業へのグループ内CMSによる短期貸付が116億円増加したことで投資C/Fが増加しており、その影響を含めた今期の投資C/Fは▲294億円。前年同期のユニキャリア連結影響▲655億円を含めた投資C/Fは▲840億円

※2 今期のFCFは三菱重工業向けCMS影響含めると+17億円。前年同期のFCFはユニキャリア連結影響を含めると▲514億円

## 8. 2019年3月期通期業績見通し

Logisnext

(単位：億円)

| 項目                              | 2018年3月期<br>(実績) | 2019年3月期<br>(予想) |
|---------------------------------|------------------|------------------|
| 販売台数                            | 113千台            | 118千台            |
| 売上高                             | 4,331            | 4,350            |
| 営業利益 (のれん償却前)<br>(営業利益率)        | 191.3<br>(4.4%)  | 208.5<br>(4.8%)  |
| のれん償却                           | ▲98.5            | ▲83.5            |
| 営業利益 (のれん償却後)<br>(営業利益率)        | 92.8<br>(2.1%)   | 125.0<br>(2.9%)  |
| 経常利益<br>(経常利益率)                 | 84.3<br>(1.9%)   | 110.0<br>(2.5%)  |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益<br>(当期純利益率) | 29.4<br>(0.7%)   | 60.0<br>(1.4%)   |
| 1株あたり配当                         | 11円              | 11円              |

2018年度計画レート：USD=110円 EUR=130円 CNY=16円

# 【参考資料】主な経営指標

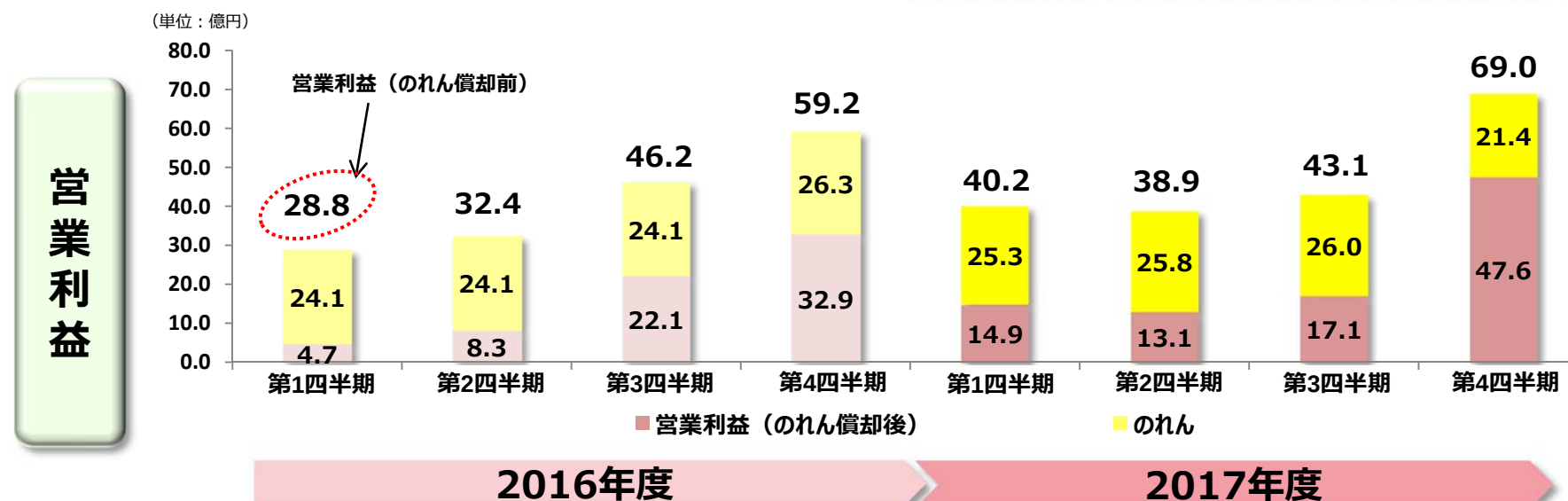
Logisnext

|      | 指標           | 算式                                   | 2017年3月期 |          | 2018年3月期 |          | コメント                                             |
|------|--------------|--------------------------------------|----------|----------|----------|----------|--------------------------------------------------|
|      |              |                                      |          | (のれん償却前) |          | (のれん償却前) |                                                  |
| 総合   | 総資本利益率（ROA）  | $\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$    | 1.3%     | (2.2%)   | 0.8%     | (3.3%)   | 2018年3月期はのれん償却負担と単体の事業構造改革費用、中国・欧州子会社の損失処理等により悪化 |
|      | 自己資本利益率（ROE） | $\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$   | 6.3%     | (10.7%)  | 5.0%     | (18.6%)  |                                                  |
| 収益性  | 売上高営業利益率     | $\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$     | 3.9%     | (4.8%)   | 2.1%     | (4.4%)   | 2018年3月期はのれん償却負担と中国子会社の損失処理等により悪化                |
|      | 売上高当期利益率     | $\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$    | 1.3%     | (2.2%)   | 0.7%     | (2.8%)   |                                                  |
| 効率性  | 総資本回転率       | $\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$      | 1.0回     |          | 1.2回     |          |                                                  |
|      | 売上債権回転率      | $\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$     | 4.8回     |          | 6.1回     |          |                                                  |
|      | 棚卸資産回転率      | $\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$    | 4.5回     |          | 5.8回     |          |                                                  |
| 安全性  | 自己資本比率       | $\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$     | 15.8%    |          | 16.0%    |          |                                                  |
|      | D/Eレシオ       | $\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$   | 3.2倍     |          | 3.0倍     |          |                                                  |
| 株主関連 | 1株あたり利益      | $\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$ | 34.2円    |          | 27.6円    |          |                                                  |
|      | 株価収益率（PER）   | $\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$   | 20.9倍    |          | 32.4倍    |          | 2017年3月期末：714円<br>2018年3月期末：895円                 |
|      | 株価純資産倍率（PBR） | $\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$  | 1.3倍     |          | 1.6倍     |          |                                                  |

# 【参考資料】四半期推移

Logisnext

※2016年度第1四半期～第3四半期の数値は仮想連結



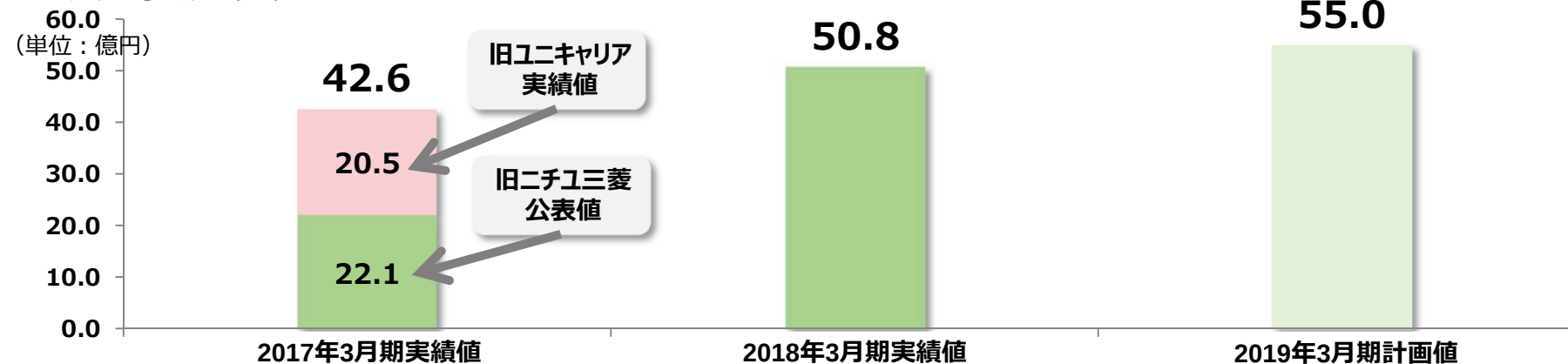
# 【参考資料】設備投資／研究開発費

Logisnext

## ■ 設備投資額

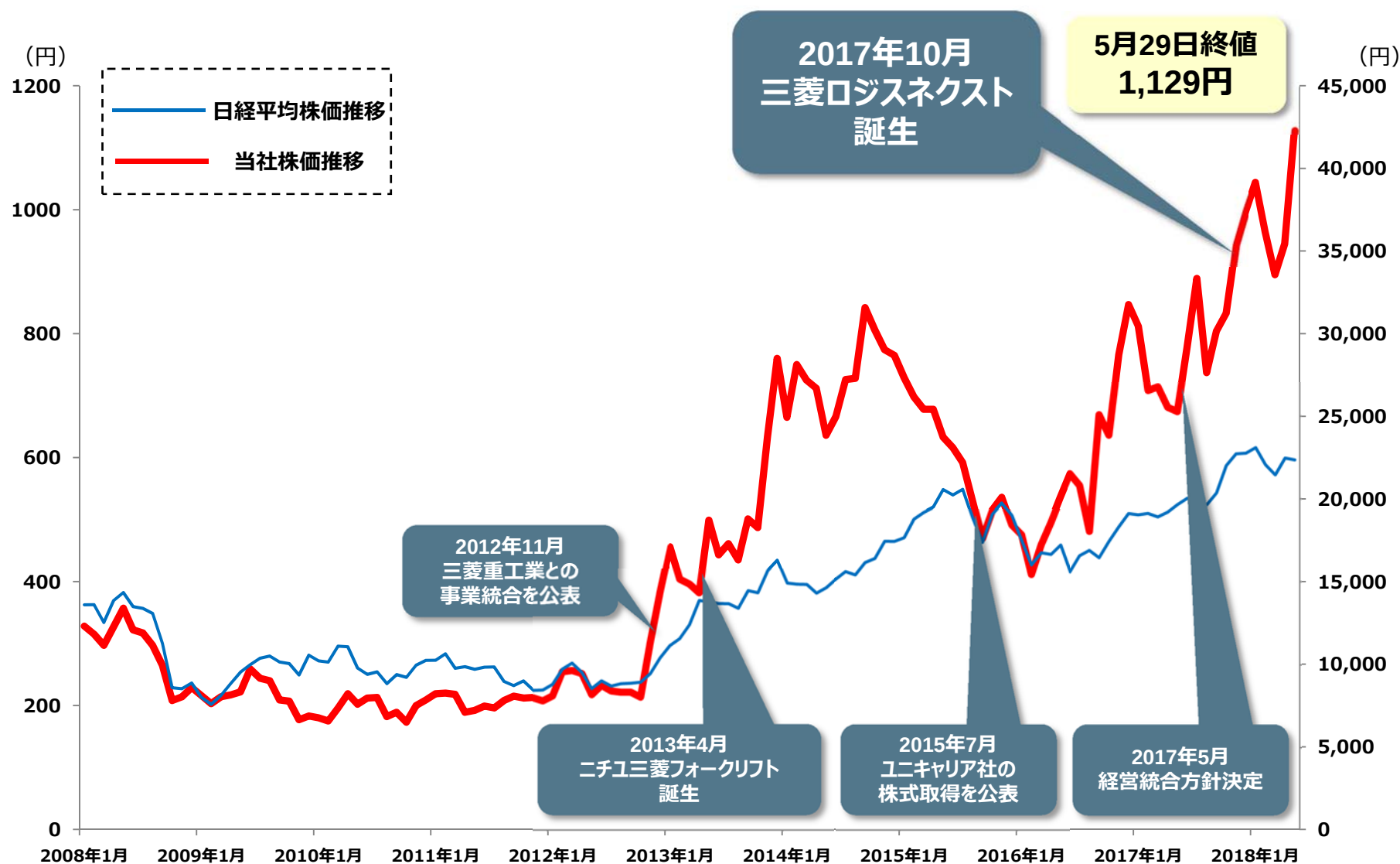


## ■ 研究開発費



# 【参考資料】株価の推移

Logisnext



## 【参考資料】会社概要

Logisnext

|        |                                                                                                   |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商 号    | 三菱ロジスネクスト株式会社<br>(Mitsubishi Logisnext Co., Ltd.)                                                 |
| 本社所在地  | 京都府長岡京市東神足2丁目1番1号                                                                                 |
| 設 立    | 1937年8月                                                                                           |
| 代 表 者  | 代表取締役社長 御子神 隆                                                                                     |
| 資 本 金  | 48億90百万円（2018年4月1日現在）                                                                             |
| 事業内容   | バッテリーフォークリフト、エンジンフォークリフト、<br>搬送用ロボット、自動倉庫、WMS等の物流システム商品、<br>土木建設機械、産業用エンジン、ミッション等の開発・設計・<br>製造・販売 |
| 事 業 所  | 【国内】京都・滋賀・神奈川 他<br>【海外】米国・欧州・中国・アジア 他                                                             |
| 連結従業員数 | 約11,000名                                                                                          |
| 年間生産能力 | 約121,000台                                                                                         |

# 【参考資料】国内生産／販売拠点

Logisnext

生産拠点：5 直系販社：11



# 【参考資料】主な海外生産／販売拠点

Logisnext





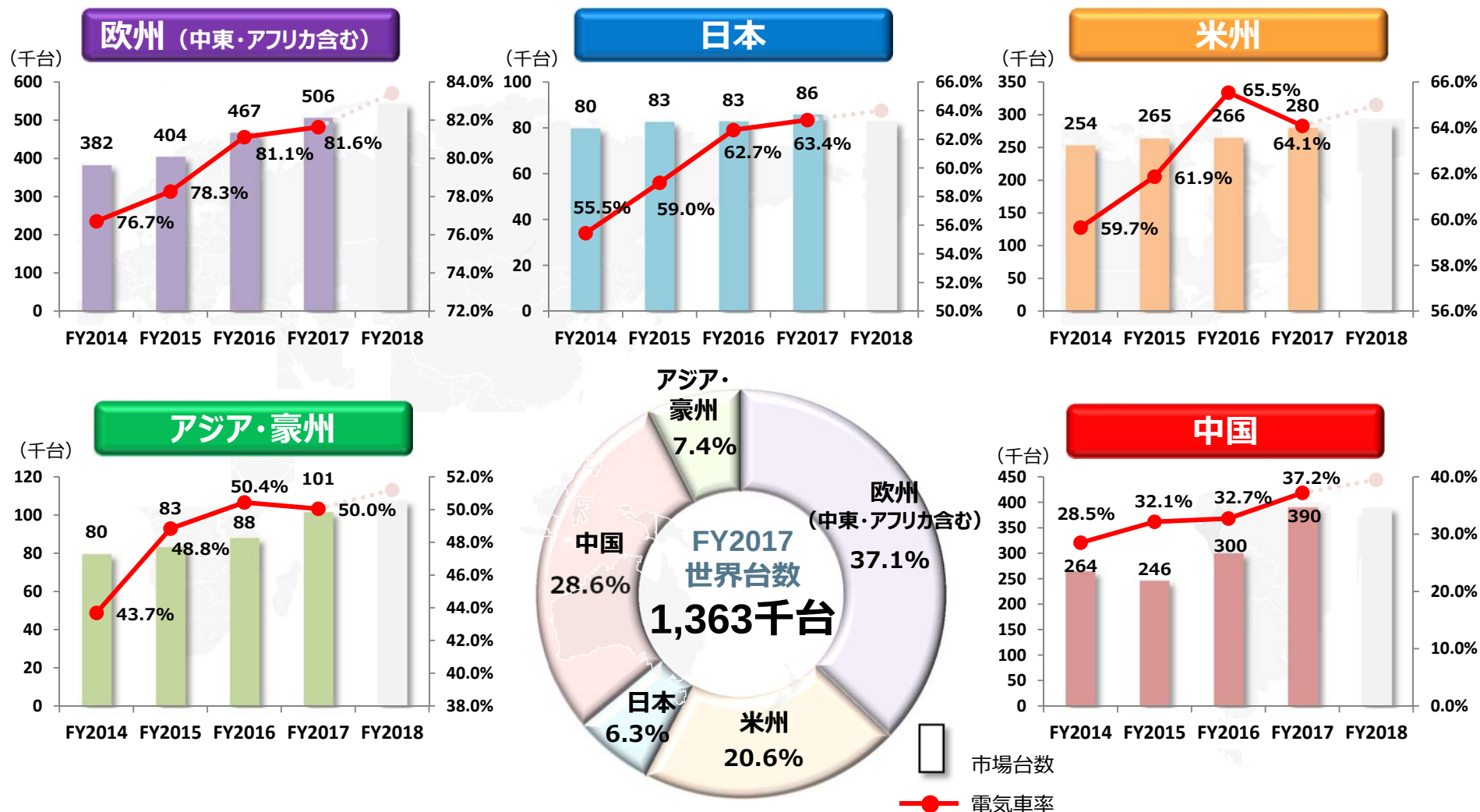
# 2018年度経営方針

三菱ロジスネクスト株式会社  
取締役社長 御子神 隆

# 1. フォークリフト市場動向

Logisnext

2017年度世界市場は中国・アジア・欧州市場が牽引し、前年比13.3%増の1,363千台。  
2018年度も堅調に推移する見込。



## 2. 2017年度トピックス

Logisnext

### 新会社「三菱ロジスネクスト」発足

- 2017年10月1日、ニチュ三菱フォークリフトとユニキャリアが経営統合し、世界トップクラスの物流機器メーカー「三菱ロジスネクスト」誕生。

【三菱ロジスネクスト 新ロゴマーク】

Logisnext

### 経営基盤の構築

- 本社機能を京都府長岡京市に集約、人事制度を一本化。
- マルチブランド戦略に基づきブランドを整理。
- 日米欧3拠点でのグローバル開発体制を強化。

### 新規事業の拡大と生産性の向上

- 伸長を続ける電気車、AGV・AGFの品揃えを拡充。
- エンジン車の排出ガス規制への対応と安全・快適性等を改良。
- 生産機種の一部集約とエンジン等ユニット共通化によるシナジーの創出。



レーザー誘導AGF  
「Platter Auto」

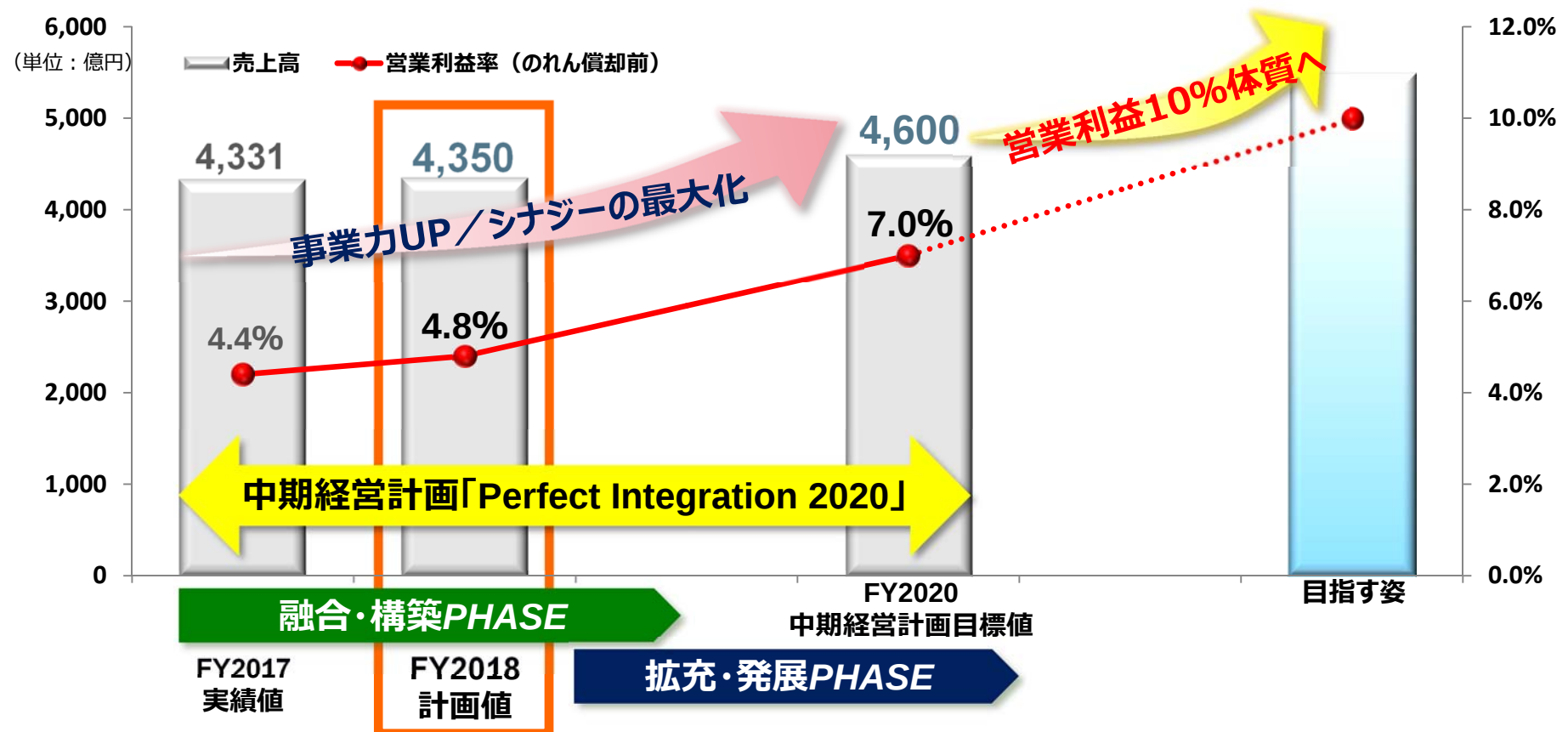


新型リーチスタッカー「MR4531」

### 3. 2018年度経営方針

#### 2018年度の位置づけ

- 中期経営計画「Perfect Integration 2020」の2年目
- 「融合・構築PHASE」の総仕上げと「拡充・発展PHASE」へのスムーズな移行
- 「既存事業」「シナジー」「新規事業」の3本柱で収益力を強化

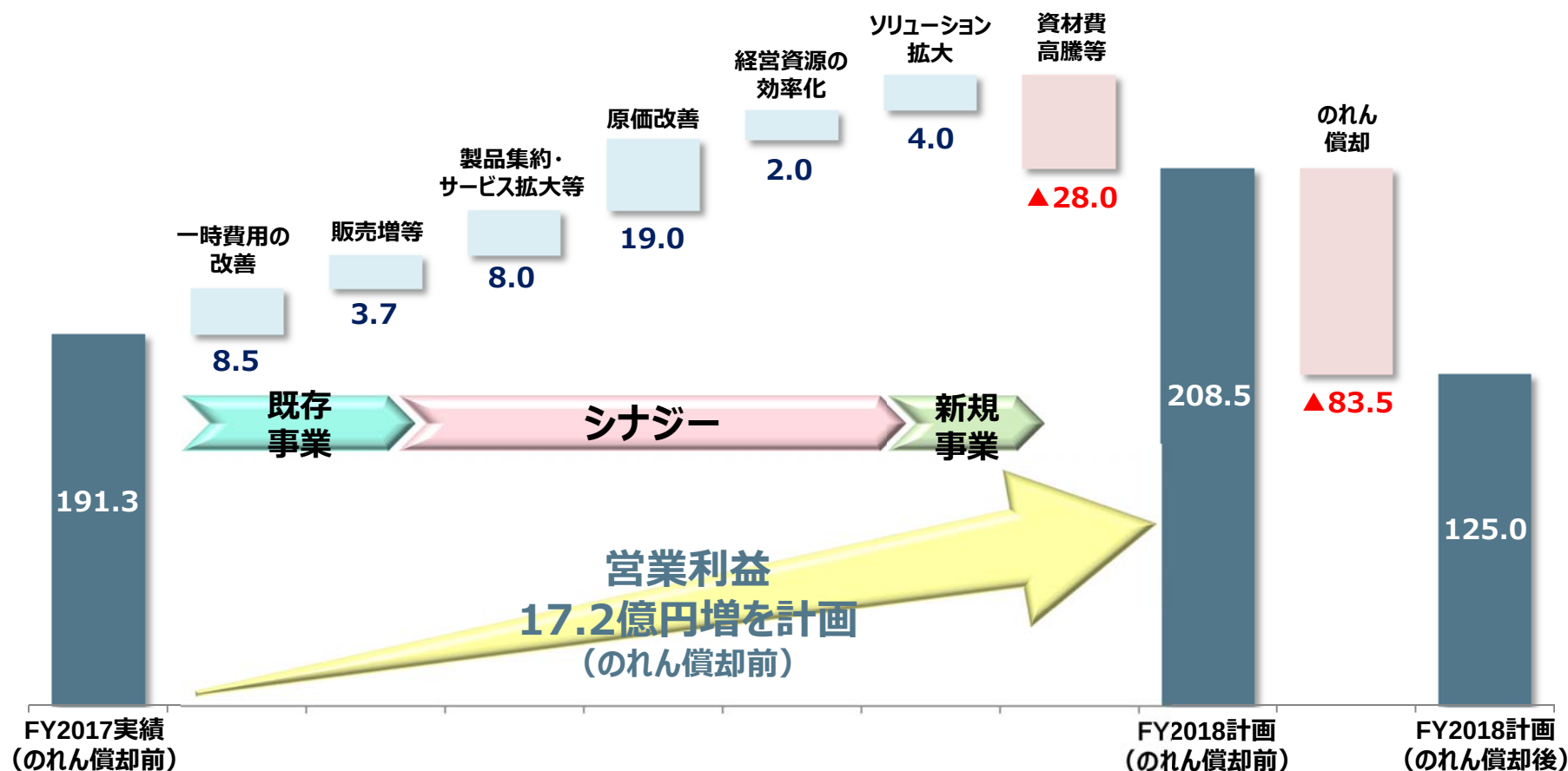


## 4. 連結営業利益増減要因

(2018年度計画／  
2017年度実績対比)

Logisnext

(単位：億円)



## 5. 既存事業

### ■ 地域ニーズにマッチした製品展開

#### ➤ 新型フォークリフトの市場投入

- 最新の欧州デザインを取り入れた新型バッテリー式フォークリフト「TXシリーズ」を販売開始。「TX3」は2018年reddot award（欧州デザイン賞）受賞。
- 欧州ウェアハウス市場に対応するためローレベルオーダーピッカーをモデルチェンジ。
- 2018年度以降も統合モデルを展開予定。



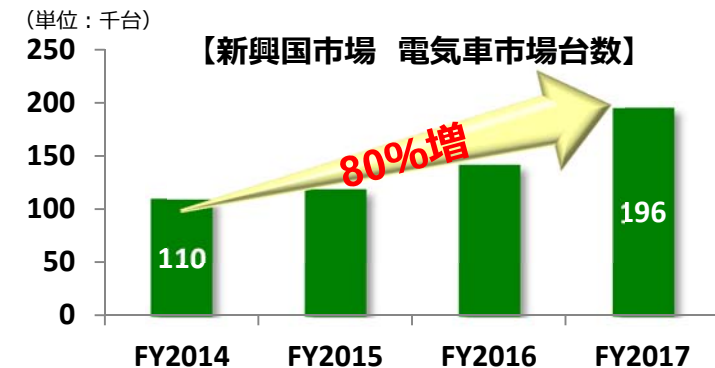
欧州向け新型バッテリー式  
3輪フォークリフト「TX3」



欧州向け新型ローレベル  
オーダーピッカー

#### ➤ 新興国市場における電気車化への対応

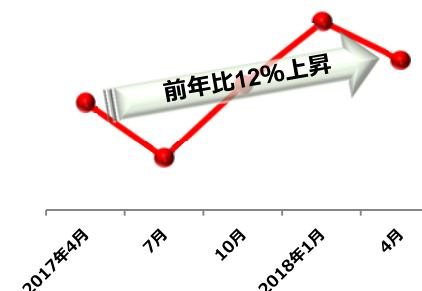
- 欧州設計モデルの他地域への展開。



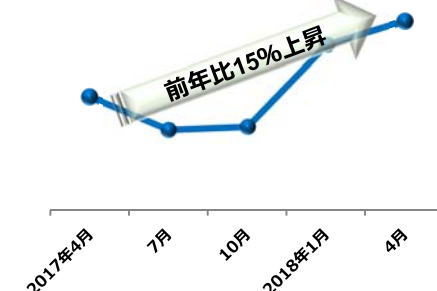
### ■ 原材料価格高騰への対応

#### ➤ フォークリフトの価格改定

【鉄鉄価格推移】



【鉛価格推移】



## 6. シナジー

### ■ 製品集約

#### ➤ 商品力の強い製品への集約

- ・ 強みのある製品をマルチブランドで販売。
- ・ 製品集約により生産効率を向上



国内向け大型エンジン式  
フォークリフト「FD160」



国内向け中型エンジン式  
フォークリフト「FD70」



国内向けリーチ式  
フォークリフト「Platter」  
(TCMブランド仕様)

| 集約実施<br>機種 | 製品名                   | 販売地域   |
|------------|-----------------------|--------|
|            | リーチ式フォークリフト「Platter」  | 日本・アジア |
|            | 中型エンジン式フォークリフト「FD70」他 | 日本     |
|            | 大型エンジンフォークリフト「FD160」他 | 日本     |

### ■ アフターサービス・中古車ビジネスの拡大

#### ➤ 部品供給体制の統一化

- ・ 生産拠点ごとに分散されている各地域のパーツセンターを2020年度を目処に集約。
- ・ 「部品管理の効率化」「業務の簡素化」「配送費用の軽減」シナジーを創出。

#### ➤ 中古車ビジネスの拡大

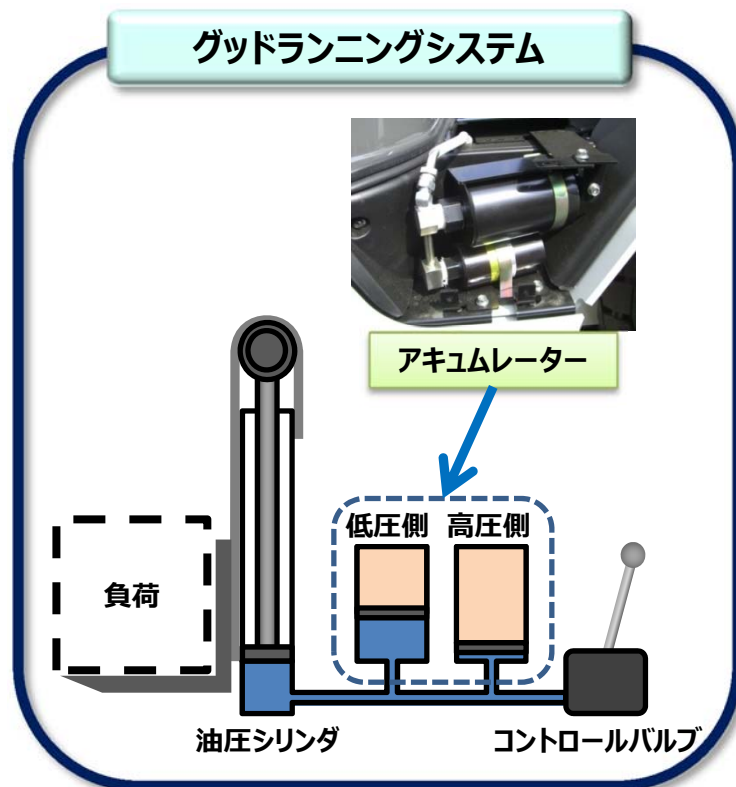
- ・ 双方の特徴を生かし販路開拓を推進。
- ・ 国内外での製品バリューチェーンの拡充。

## 6. シナジー

### ■ 安全・安心への取り組み

#### ➤ 運行安全技術の水平展開

- グッドランニングシステム：油圧システムに装着された2つのアキュムレーター（緩衝装置）により（旧ユニキャリアにて製品化） 走行中に発生する振動や衝撃を吸収。



- ✓ 荷物への衝撃を吸収
- ✓ 荷崩れを防止
- ✓ 騒音の軽減
- ✓ オペレーターの疲労軽減



システム非搭載



システム搭載車

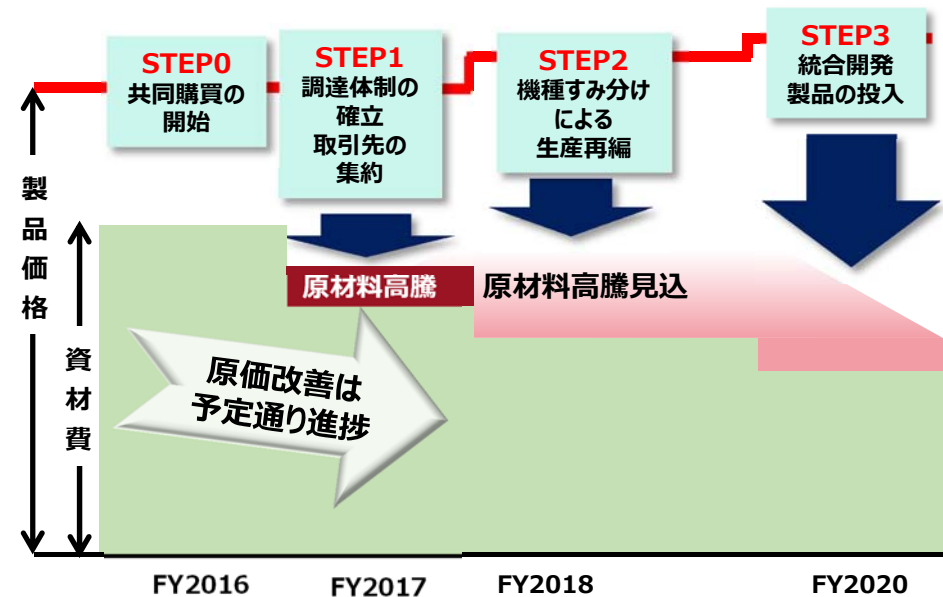
本システム搭載車種を拡大し、高度な安全技術をお客様にご提供

## 6. シナジー

### ■ 原価改善

#### ➤ コスト改革の実現

- 2017年度は原材料高騰があったが、原価改善施策の前倒しで影響を抑制。
- 今後は「部品共通化」「機種片寄せ」、さらには「統合開発製品の投入」を実施。



### ■ 経営資源の効率化

#### ➤ 欧州子会社保有不動産のリースバック

#### ➤ 新川崎事業所の資産譲渡

- 経営基盤の強化を目的にアセットマネジメントの一環として、MCFE※（オランダ）の土地・建物を2018年2月に、新川崎事業所の土地・建物を2018年4月に資産譲渡。

※MCFE : Mitsubishi Caterpillar Forklift Europe B.V.

#### ➤ リソース最適化への投資

- トラブルシューティングシステム構築によるサービス効率の向上。
- サービス要員・セールス要員の増強によるお客様対応力の強化。



新川崎事業所 外観

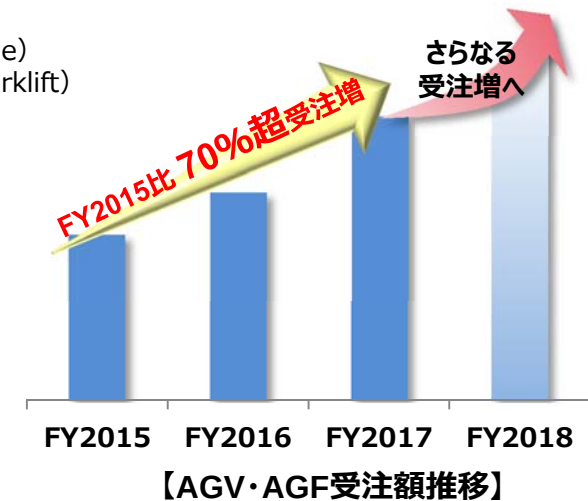
## 7. 新規事業

### ■ソリューションの拡大

#### ➤ AGV・AGF※の拡販

※AGV：無人搬送車（Automated Guided Vehicle）  
AGF：無人フォークリフト（Automated Guided Forklift）

- 「自動化・無人化・省人化」ニーズの高まりでAGV・AGFの受注が拡大。
- レーザーAGF「Platter Auto」の展示機をオンサイト研修センター（埼玉）と新川崎事業所に導入。
- 今後、日本・欧州以外の地域でも展開予定。



#### ➤ 自動化・無人化技術の応用

- 倉庫内物流の無人化について三菱重工業と共同で研究を開始。



レーザー誘導AGF「Platter Auto」デモ風景（オンサイト研修センター）



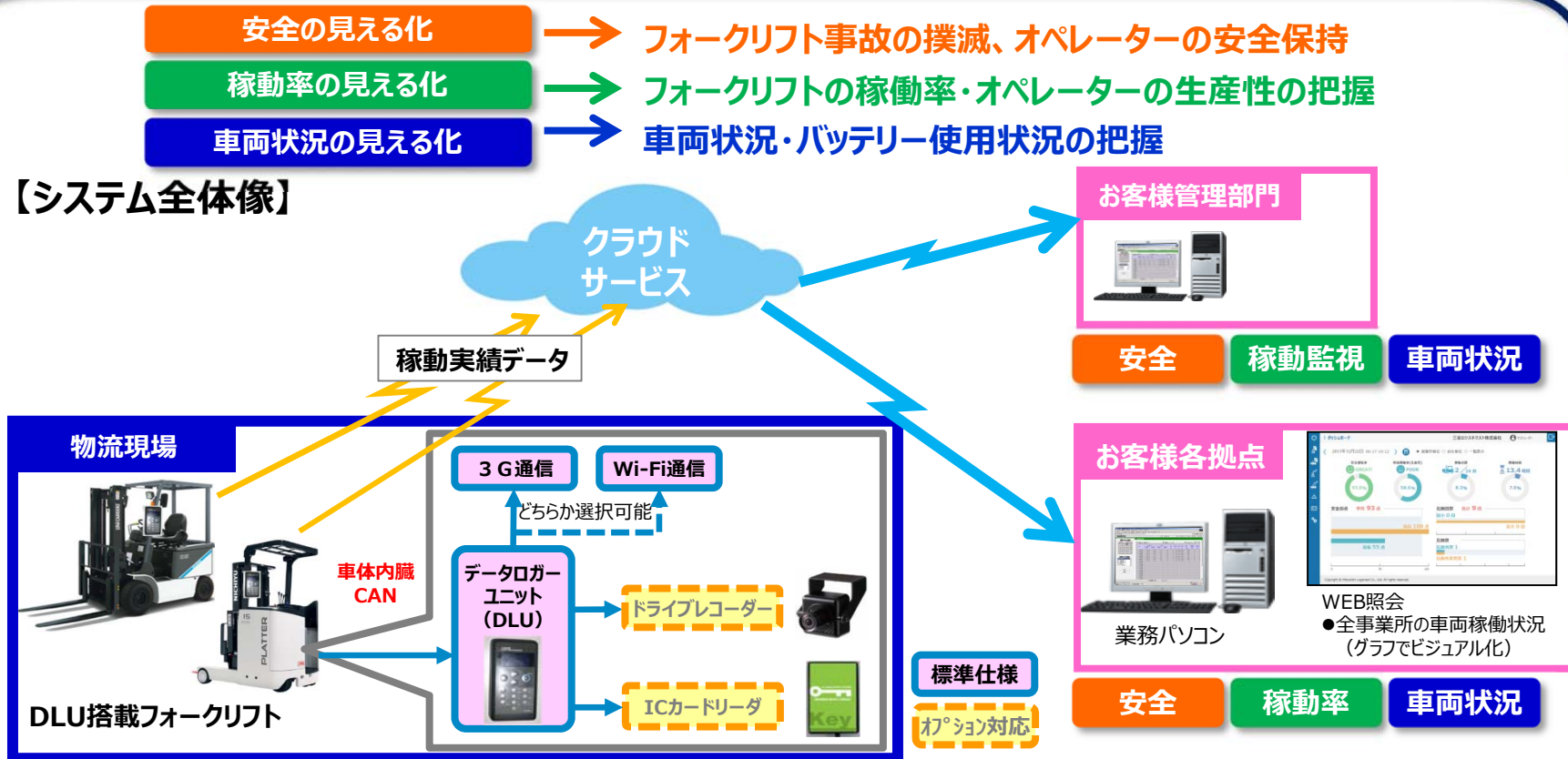
Rocla製レーザー誘導AGV

## 7. 新規事業

Logisnext

### ■ AI・IoT技術による作業の「見える化」

- フォークリフト稼働管理システム「Logistics Vehicle Support」(2018年6月発売予定)



#### 当社製品の特徴

- ① Wi-Fi通信対応
- ② 既納車両・他社製車両への対応
- ③ 冷凍冷蔵庫仕様車への対応
- ④ ドライブレコーダー装着可能 (オプション)

## 8. 経営基盤強化

### ■ 業務システムの統合

- 統合範囲の拡大により統一効果の最大化を目指す。
- 2017年度に国内の会計・設計システムの統合は完了。
- 今後は2020年度を目処に国内業務システムの統合を完了し、グローバルの統合を目指す。

業務ツール統一化（国内）実施状況

| 項目        | 進捗状況 |
|-----------|------|
| 管理／ファイナンス | 完了   |
| 販売        | 推進中  |
| 生産        | 推進中  |
| 設計        | 完了   |
| 調達        | 推進中  |

### ■ ガバナンスの強化

#### ➤ 事業統合への対応

- グループ規模の拡大に対応し、各種規則類の拡充および教育の充実。  
コンプライアンスの徹底とあわせ、確固たるガバナンスを構築する。

#### ➤ 統括会社の設立

- 欧州および米州に地域統括会社を設立。  
必要に応じた権限委譲とあわせ、柔軟かつ迅速な対応を可能にする。



## 注意事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。
- 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保障するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

## 本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 企画部企画課 齋藤、 辻

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-8610 FAX : 075-951-4038

URL : [www.logisnext.com](http://www.logisnext.com)

# Logisnext

三菱ロジスネクスト株式会社